

南岩藏石不動 みなみいはくらいしふどう 「松原通 ふや 慈屋町の角にあり、真言宗高野山明王院兼帶所なり。本尊不動明王は石像、弘法大師の作なり」

〔寺記云、当院初は法相宗にて、持統帝の御宇朱雀五年に、道觀大徳の草創なり。其頃は此地松柏森々として其中に一
堆の丘山あり、平安城開闢の後、弘法大師此石仏をつくりて安置し給ふ。又詔ありて、王城鎮護の為四方に經王を石藏
に收めらる、此所も其一員にして南岩藏と称す。其後天暦年中、鴨川洪水の時堂舎も没流し荒廢に及びしを、山門の僧
苔筵勅をうけて再興す。それより年累り応仁の乱後大に頽廢し、石像も塵芥の中にあり。天正年中聚楽城造営に奇石を
多くあつめらる、これを石狩といふ、其時苔蒸たる奇石なりとて聚樂に入らる。かゝる所夜々光を放ちて城中に怪異
多し、故に元の地に返しける。是より後は小堂を營てこゝに安置す、靈驗古今に新なり〕

鉄輪塚 かなわづか 〔堺町通松原の南にあり。伝云、昔嫉妬深き女あり、神に祈て毎夜丑の時参をなす、氣疲てこゝに死す、其
靈を築くといふ。今は人家建続て塚詳ならず〕

大江公資家 おほえのかずのいへ 〔東洞院通五条の北、東側人家の裏に古き高樓あり、是其旧跡なりとぞ。世人謬て深草少将の家なり
とし、町の名も今深草町といふ〕

〔袋艸紙云、能因は古曾部より毎年花盛に上洛して、大江公資が五条東洞院の家に宿す、件の家の南庭に桜樹あり、其花を観ばん為なりと云々〕

御射山諏訪社〔東洞院通六角の南、御射山町人家の奥にあり。信州諏訪明神を勧請す。鎮坐の年記詳ならず、毎歳七月廿七日祭式を修す〕

住心院〔東洞院通三条の南にあり、天台宗修驗道にして聖護院の院家たり。大僧正澄算中興し、それより堂上の華族入院ありて御嗣職し給ひ、代々勅願所とす〕

本尊毘沙門天〔運慶の作、立像四尺八寸。中頃大僧正晃諱一夕の夢に、西の方十里余り歩行し一つの高山に至れば、松柏蒼鬱として巍々たる宝閣あり。時に百千の蜈蚣精舎を囲繞し、守護の体に見へける。其中に光明煌々として多門天現れ給ふ、大僧正隨喜敬礼して夢さめぬ。奇異なるかな其翌旦、妙法院堯恕法親王より金剛院僧正に命じて、此尊像を附属し給ふ。諄師夢中の尊影に違はずとて、拝領して初は攝州本山寺に安置し、尊天告命によつて当院に遷し奉る。左に酉仏師の作りし大日如来、右に弘法大師の作り給ふ愛染明王を脇士とし。近年堂舍再營ありてつねに詣人絶ず〕

鼠究不動尊 〔六角堂の西に隣る、住心院に属す。本尊不動尊は弘法大師の作、坐像三尺五寸。脇壇に大日如来を安ず、智証大師の作。又辨天は伝教大師の作〕

大師堂 〔松原因幡堂の内西之坊にあり、密藏院医王寺と号す、近年堂宇建立ありて堂後西向に額を揚る、秘密藏と書す、智積院動明僧正の筆なり〕

弘法大師像 〔真言新義の宗祖興教大師の作、坐像三尺余。旧此尊像は紀州一乘山根来寺の本尊なり。天正十一年兵火の時、かの寺の学頭中性院性盛上人に靈告ありて、当院に遷す。年久しく客殿に安置し、天明元年今の中堂内にうつす。又真言新義中性院伝受の秘密道具、当寺中興性盛上人より伝来して今此寺にあり〕 早咲椿 〔当寺の庭中にあり。後水尾院此椿を愛せられ、勅して銘を因幡堂と賜ふ。其節禁裏御口切の生花に用ひられしとぞ〕

いなばだうといふ名の椿を見て其名の五もじを句の上に置て

狂歌をよめる

いみじさもながく八千代も花あれど玉椿をご植や置けん

湘 夕